



世界冬の都市市長会 広報誌

World Winter Cities Association for Mayors

2017年
2月発行

〈世界冬の都市市長会事務局〉

〒060-8611 札幌市中央区北1条西2丁目 札幌市総務局国際部内 TEL 011-211-2032 FAX 011-218-5168
e-mail / wwwcam@city.sapporo.jp URL / http://www.city.sapporo.jp/somu/kokusai/wwwcam/

34年ぶりに札幌で世界冬の都市市長会議を開催！

2016年7月27日から30日までの4日間、札幌市で第17回世界冬の都市市長会議が開催され、8か国32都市から98名が参加しました。札幌での市長会議開催は1982年の第1回市長会議以来、34年ぶりとなりました。

初期の市長会議では冬の生活課題の克服をテーマに議論を重ねてきましたが、2000年代以降、世界的な課題である地球環境問題を主要な議題としてきました。

今回の会議では、「冬の都市のまちづくり ～独自性とその魅力～」をメインテーマに、冬の都市だからこそ持ち得るまちの魅力に着目し、これをどのように発展させ、発信していくのかについて、率直な意見交換を行いました。



■参加都市(会員都市) 7か国・15都市

国名	都市名
カナダ	エドモントン市
中国	チンヤン 長春市、ハルビン市、ジャムス市、鶏西市、 チチハル市、瀋陽市
フィンランド	ロヴァニエミ市
日本	松本市、札幌市
モンゴル	ウランバートル市
韓国	ソウル市、大邱市、大田広域市、光州市、釜山広域市、蔚山広域市、仁川広域市、京畿道、忠清道、全羅道、慶尚道、江原道、済州道
ロシア	ノボシビルスク市

■参加都市(オブザーバー参加都市) 3か国・17都市

国名	都市名
デンマーク	コペンハーゲン市
ロシア	グズネツキー市、プーロフスキー地区、 ヤマロ・ネネツ自治管区
日本	弘前市、金ケ崎町、福岡市、留萌市、苫小牧市、 美唄市、千歳市、滝川市、恵庭市、ニセコ町、 倶知安町、月形町、下川町

第17回世界冬の都市市長会議の開催概要

- 会期:2016年7月27日(水)～30日(土)
- 会場:札幌コンベンションセンター(札幌市)
- 主な行事
開会式、総会、会員都市による事例紹介、市長ディスカッション、
北極圏デザイン小委員会、全体会議・閉会式

札幌宣言と決議を採択

市長会議の締め括りに全体会議を開催し、札幌市及び事務局から提案された札幌宣言及び決議が会議に参加した全会員都市の賛同を得て採択され、会議参加都市の代表者が署名した後、本市市長会議の主催者である札幌市の秋元市長が宣言文に署名しました。

会議での議論を通じて、冬の都市には優れた独自性があり、それがまちづくりを進める上で大きな強みになっていること、そして、会員都市が互いに協力し合いながら、市長会ネットワークをまちづくりに生かしていくことを改めて共有することができました。

また、環境保全のように、会員各都市の努力が地球規模の課題の解決につながることに加え、これまで国や文化の違いを越えて培ってきた市長会ネットワークが、様々な国際的課題の解決の一助になることを確認しました。

参加都市から、「冬の都市間の類似性と相違性を学ぶことができた」、「厳しい気候条件における市民生活改善のため、知識や経験を共有することは大切」などの感想が述べられ、最後に秋元札幌市長が「冬の寒さや雪を克服していく知恵を共有し合う」というところから、地球環境問題を含め、まちづくりという大きな視点で都市の連携を進めていく、そのような新たな思いを共有できた」と述べ、会議を終了しました。

札幌宣言

34年間の歴史を有する「世界冬の都市市長会」は、1982年に「北方都市会議」として、ここ札幌で始まった。

これまで我々は、積雪寒冷地の都市が抱える多様な課題と向き合い、数多くの仲間たちと共に学び合うことで冬の都市の発展に努め、その絆を強固なものにしてきた。

冬の都市には雪や寒さという冬の特徴に加え、四季の変化や際立つ夏の輝きという他の地域にはない魅力がある。これらを生かして、「このまちに住んでいて良かった」と思ってもらえるようなまちづくりを行うことが我々の使命である。

我々は世界冬の都市市長会のネットワークを最大限に活用し、国や立場を超えて互いの文化の違いを理解し、つながり、切磋琢磨し合いながら協力し、こうした「まちづくり」を一層推進していく。

また、冬の都市市長会を通じた我々の活動は、各都市の課題解決のみならず、未来の国や世界を形作る欠かせない要素であり、環境問題など地球規模の課題解決にも寄与していることをここに確認する。

さらに、30年を超える継続的な活動を通じ、国境を越えて信頼関係・協力関係を築いてきた冬の都市のネットワークが、異なる文化や利害が複雑に絡み合ったさまざまな国際的課題の解決の一助になることも期待したい。

よって、我々冬の都市は、さらなる連携を深めるとともに、世界冬の都市市長会が積雪寒冷地の都市を主導する存在となることを目指し、始まりの地であるここ札幌から、共に未来に向かって新たな一歩を踏み出して行くことを宣言する。



参加会員都市の代表者による記念写真

会員都市による事例紹介

7月27日、28日の2日間に渡り、3つのサブテーマに基づき13都市が14事例を発表し、次への展開のヒントになるような、共通する課題や取り組みの事例も多く紹介されました。

テーマ1 冬を活用したまちづくり

エドモントン市からは2012年に策定した「冬の都市戦略計画」に基づくまちづくりについて、ジャムス市、鶏西市及びチチハル市、華川郡からは、雪や氷といった冬の資源を観光資源として活用する取り組みが、長春市、ロヴァニエミ市からは、ウィンタースポーツを活用したスポーツツーリズムに関する取り組みが、そして、ノボシビルスク市からは、寒冷の厳しい環境下における施設建設の事例などが紹介されました。また、今回の開催都市である札幌市からは、冬季オリンピック・パラリンピック招致を通じたまちづくりについて発表を行いました。

テーマ2 冬以外の季節の気候特性を生かしたまちづくり

麟蹄郡からは、あらゆる自然エネルギーを活用し、エネルギーの都市部からの自立を目指す取り組みが紹介され、2045年までにエネルギー自給率100%を目指していることが紹介されました。

テーマ3 冬の都市における環境に配慮した持続可能なまちづくり

松本市より、2010年から先進的に行っている食品ロス削減事業が紹介された他、ハルビン市から10年間にわたり行ってきた水源地の環境改善への取り組みが、同じく瀋陽市からは、2011年から推進している環境配慮型のビル建設に係る取り組みなどが紹介されました。また、札幌市からは都心部における環境に配慮した持続可能なまちづくりについて発表を行いました。



環境保全に関する行動目標

2014年1月に華川郡で開催された第16回世界冬の都市市長会議での決議を受け、各都市が設定した環境保全に関する行動目標の取組結果を報告するとともに、行動目標を設定していなかった都市も環境保全の取り組みについての現状を紹介しました。

そして、今後も環境保全に関する取り組みを継続し、各都市が新たに行動目標を設定した上で、2018年に瀋陽市で開催する第18回世界冬の都市市長会議の場で、その取り組み結果について報告することとなりました。

市長ディスカッション

本会の創設時からの特徴である、都市が抱える課題について市長同士が対面で率直に語り合い、学び合うことを実現するものとして、各都市代表者による「市長ディスカッション」を行いました。

今回は「まちに経済的な活力を創出するための方策」をテーマに、華川郡のやまめ祭りによる地域活性化や、麟蹄郡などのスポーツを活用した活性化の取り組み、ノボシビルスク市などの企業支援策といった、様々なアプローチからの意見が出され、有意義な情報交換の場となりました。

北極圏デザイン小委員会

課題解決の手法としてデザインを活用し、会員都市の成功事例やノウハウを学び合う「北極圏デザイン小委員会」が開催され、同小委員会事務局のロヴァニエミ市より、事前に行った小委員会参加都市の成功事例に関するアンケート結果が報告されました。

報告では、ロヴァニエミ市の資源再利用と商品への付加価値付与を重視した新しい経済モデル「サーキュラー・エコノミー」やノボシビルスク市の歴史文書と伝承に基づき市内各所をめぐる「冬の暖かツアー」、長春市が10年にわたって開催している「国際クロスカントリースキーフェスティバル」の事例などが紹介されました。今回の結果を踏まえ、今後さらにデザインへの理解を深め、まちづくりの成功事例を共有していくことを確認しました。



北極圏デザイン小委員会の様子

世界冬の都市市長会とは

「世界冬の都市市長会」は、「冬は資源であり、財産である」というスローガンのもと、世界中の冬の都市が集まり、冬の技術や経験、まちづくりの取り組みを学び合うためのネットワークです。かつては、北方都市会議と呼ばれ、1981年に札幌市が提唱し、翌年、第1回の市長会議を開催したのが始まりです。2004年には、さらなる発展を目指し、名称を「世界冬の都市市長会」に変更しました。冬の都市の市長が一堂に会し、快適な冬のまちづくりに有益な情報や技術を共有しながら、地球環境問題のように世界が協力しなければならない課題にも、国際社会の一員として取り組んでいます。積雪寒冷という同じ環境にある海外都市とのこうした交流が、それぞれの都市にとって有形・無形の財産を築くことにつながっています。

*冬の都市とは

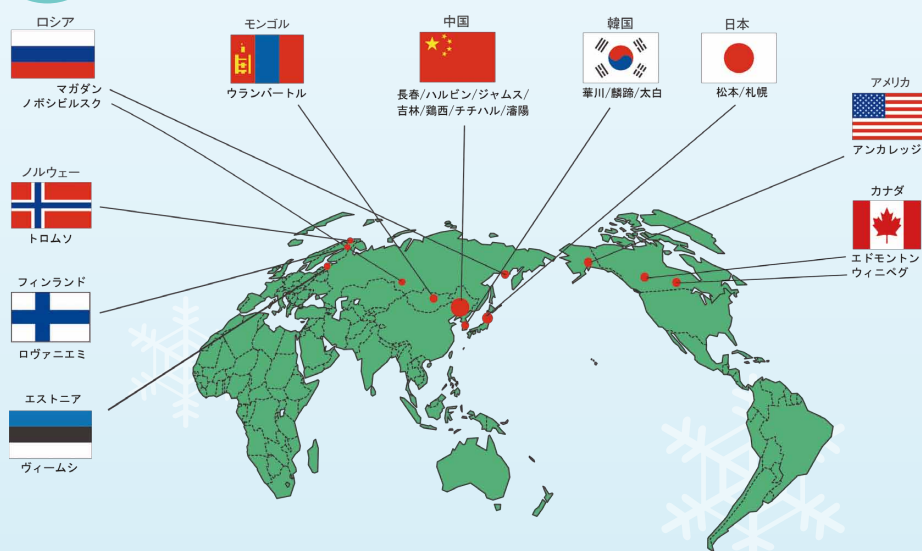
積雪または寒冷という気象条件のもとでまちづくりを行う都市。

積雪の基準 … 1年間のうちで積雪量の最大値が概ね20cm(8インチ)以上となること。

寒冷の基準 … 1年間のうちで最も寒い月の平均気温がおおむね摂氏0度(華氏32度)以下となること。

■ 会員都市

10か国21都市(2017年1月現在)



韓国・華川のやまめ祭り



フィンランド・ロヴァニエミのオーロラ

世界冬の都市市長会は、国連経済社会理事会登録NGO(ロスター)、国連広報局登録NGOです。

■ 主な活動内容

◆ 市長会議

世界冬の都市市長会の主要事業であり、2年に1度開催されます。これまで17回の会議が開催されており、地球環境問題、都市計画、冬の都市交通、除排雪などについて、市長同士が先駆都市の知恵と経験を共有し、まちづくりへのヒントや厳しい気象条件を克服する手立てを学んできました。

市長会議は、市長自らが各都市の取組事例を紹介し、都市経営の最高責任者である市長同士が膝を交えて率直に意見交換を行うユニークかつ格好の機会となっています。

◆ 小委員会

冬の都市の実務者・技術者が先進事例などを調査・研究する機関です。これまでに、「観光促進小委員会」、「雪対策小委員会」、「自然災害対策小委員会」、「持続可能な冬の都市づくり小委員会」、「冬の都市環境問題小委員会」、「環境保全小委員会」などが設置され、それぞれのテーマに基づいて成果をまとめています。現在は「北極圏デザイン小委員会」が設置され、デザインを課題解決の手法と捉え、これをまちづくりにどのように活用していけるのかをテーマに、調査研究を進めています。

◆ 実務者会議

会員都市の行政実務者が集まり、次回市長会議の開催計画やテーマ、市長会の運営などについて協議する会議です。会議は原則2年に1度、事務局都市で開催されることになっています。

■ 新規入会都市 エドモントン市の紹介

エドモントン市は、冬の都市のさらなる発展に向けた取り組みに着手し始めたところであり、その文化は日々変容しています。エドモントン市民は冬の存在に感謝しており、この困難で美しい季節の潜在的な可能性を開花させながら、生活の質の向上を図っています。

エドモントン市の「ウィンターシティ・ストラテジー」は2012年に採択され、本戦略の実施計画が2013年に承認されました。本戦略が承認される過程において、エドモントン市議会は、市民自身がエドモントンの冬を好きになるとの考えに基づいたビジョンを正式に支援しました。このビジョンは、コミュニティリーダーの集まりである「ウィンターシティ・シンクタンク」の主導の下で作成されました。私たちは、本戦略の策定に関わるここ数年の歩みを非常に誇りに思っています。

ウィンターシティ・ストラテジーは冬の生活、冬のデザイン、冬の経済そして我々の冬のストーリーという4つのテーマから構成され、自転車道の除雪プログラム試験、照明マスタープランの作成、冬のフェスティバルの発展と持続可能性に向けた取り組みなど、10の目標を掲げています。

エドモントン市は、冬は優れた社会経済的価値をもたらす資産であると認識しています。

「ウィンターシティ・ストラテジー」とその実施計画については、下記からご覧いただくことができます。

「ウィンターシティ・ストラテジー」のウェブページ：www.edmonton.ca/wintercitystrategy



会員になるには

入会手続き: 会員になるには、入会を希望する都市の市長が会長に入会を申請します。その後、役員会に諮られ、入会が決定されます。

会費: 会員都市は、都市人口と国民1人あたりの国内総生産額(GDP)を基準として算出される年会費を払わなければなりません。ただし、入会初年度の会費納入金額は、年会費の半額となります。

会員になると: 会員になると、市長会総会及び市長会議に出席して発言し、表決に加わることができます。また、市長会議の開催市に立候補することができます。さらに、会員間に形成されているネットワークを活用してさまざまな分野で個別に交流をすることができます。

申込先: 世界冬の都市市長会事務局

最新の会議内容やこれまでの成果についての詳しい情報を、世界冬の都市市長会のウェブページに掲載していますので、ぜひご覧下さい。(http://www.city.sapporo.jp/somu/kokusai/wwcam/)

世界冬の都市市長会は、快適な冬のまちづくりについて、ともに考える会員都市を募集しています。入会の詳しい要件などについては、世界冬の都市市長会事務局までお問い合わせください。